

GOVERNOR'S

MONTHLY LETTER

国際ロータリー第2830地区
2024-25年度 ガバナー月信

最終号

No.13

2024-25年度ガバナー月信第1号(7月号)から第12号(6月号)まで
全12号の表紙を1枚にまとめてみました。



Contents

- ・巻頭言
- ・速報2025カルガリー国際大会
- ・RIJYEM研究会 青森会議開催報告

- ・インターシティ・ミーティング開催報告
- ・2024-25RYLA事業報告
- ・災害支援金報告
- ・「2025年決議審議会」への決議案提出について

国際ロータリー第2830地区事務所
〒030-0812 青森市堤町1丁目1-23 ホテル青森内
TEL.0173-732-2830/FAX.017-732-2831
E-MAIL rid2830@outlook.jp

巻頭言

梅雨入りしたというのに6月中旬以降は30度を超える真夏日が続き、もはや異常とはいえない天候とはいふものの、米やりんごの生育状況が気になる今日このごろです。ロータリアンの皆様はいかがお過ごしでしょうか。

レギュラー号の発刊を終えたにも関わらず、5月下旬からの地区行事やカルガリー国際大会の様子をどうしてもお伝えしたくて、「最終号」と題して13号を発刊することといたしました。もとより、7月1日から始まる米谷ガバナー年度では、新たなコンセプトでのガバナー月信が届けられると思いますので、是非ご期待下さい！



さて、5月30日は危機管理委員会で第2680地区の滝澤功治PGをお迎えして米山記念奨学生の危機管理を学ぶ機会を得ました。同業者であり、尊敬するPGにお目にかかれてツーショットを撮らせていただきました。

翌日は札幌へ飛び、日台親善会議に夫婦で参加してまいりました。同期ガバナーは13名が参加、日本から400名、台湾からも400名のロータリアンが集結し、来年6月13日から台北で行われる国際大会への参加を呼びかけていました。2016年ソウル国際大会を超える7000名、できれば1万名の登録を期待されています。近距離で直行便もあり、最も行きや



すい台湾ですから、まだ国際大会に参加した経験のない方は絶好のチャンスだと思います。早く登録すれば登録料も割安となりますので、My Rotaryから登録してみてください。写真は懇親会で素敵な歌声を披露してくれた半崎美子さんを同期ガバナー達が囲んでの1枚です。

6月7日は青少年交換研究会青森会議。青少年交換が国際ロータリー正式なプログラムとなって50年の節目に当たる2025年、青森で開催することができ、ガバナー年度の最後に青森市へ皆さんをお迎えすることができました。ロータリアン190名、交換学生、ROTEXが120名の310名の登録、水野功RI理事もご参加下さいました。おそろいの赤いTシャツを来てスタートした開会式では、関場慶博PGから、50周年記念スピーチをいただきました。写真は各地域の予選を勝ち抜いた日本語スピーチコンテスト決勝進出者の留学生の皆さんとのショットです。接戦を制し優勝したのはブラジル出身、2700地区のエレナさんでした。黒石の阿保六知秀こけし職人が作ってくれた一尺五寸のこけしトロフィーが授与されました。懇親会は大人と子どもが部屋を別れて大いに盛り上がりましたが、開催地のガバナーとしては、交換留学生たちに事故やトラブルがなかったことが何よりでした。



6月10日の早朝には、マリオRI会長エレクトの辞任というショッキングなニュースが駆け巡りました。新年度一か月を切ったタイミングですから、よっぽどのことがあったのでしょう。ロータリー章典に基づいて直ちにRI理事会が招集され、マリオ氏が選出されたときの他の候補者から新たな会長エレクトが選任されました。6月14日朝には、イタリアのフランチェスコ・アレツォ氏選任のニュースが伝えられ、会長メッセージ「UNITE FOR GOOD」は維持するということで、空白と混乱は最小限に抑えられました。この混乱に乗じて、という訳ではないのですが、6月11日、鈴木PGのパートナー知子さんと一緒に、私のパートナー千津が弘前東RCに入会いたしました。率先して家族会員の入会も会員増強のためには欠かせません。



さて、いよいよ最後の地区行事、6月13日は東第1、第2グループ合同のIMとRYLAが開催されました。佐々木東第2グループガバナー補佐、虻沢東第1グループガバナー補佐は、IMのテーマとしてDEIを取り上げて下さいました。今年度新設した地区DEI委員会の源新育子委員長と柏公市委員による発表は、先日の地区研修協議会での宮里PGの基調講演を受けて、これから当地区においてDEIを推進していくための第一歩となったと思います。懇親会を素面で終え、若者の待つ青森公立大国際交流会館へ。今年のRYLAは米山奨学生とその友人、岡山建設の若い従業員ら総勢32名の登録で、大いに盛り上がりました。二日目の朝にはガバナーエレクト米谷師範による合気道の体験もあり、参加した方には充



実した二日間となりました。準備に当たった地区委員の皆様に感謝いたします。

今年の国際大会は年度大詰め6月21日からカナダ・カルガリーで開催されました。毎度のことですが、この原稿も行きの飛行機の機中で書いています。国際大会のダイジェストは、4ページ以下でお伝えいたします。ロータリーを最大限に楽しむ国際大会、先にも述べましたが、来年の台北国際大会は是非クラブメンバーお誘い合わせの上、大いに楽しむ機会になれば嬉しく思います。

速 報

2025カルガリー国際大会

ガバナー 花田 勝彦



6月21日から25日まで、カナダ・カルガリーで国際大会が開かれました。当地区からは会員とパートナーを合わせて17名のご参加をいただきました。参加された皆様は本当にありがとうございました。そしてお疲れさまでした。

ツアー参加者は6月21日(出)、午後3時に成田空港に集合し、エア・カナダで8時間30分のフライト後、バンクーバーからカルガリーに入りました。国内便が1時間30分遅れとなりましたが、16時30分に到着した後、バスに乗って登録キットの受け取りに登録センターへ。この日は朝から雨、気温は10℃で風も強

かったそうですが、私たちが到着した頃にはなんとか雨もあがっていました。夜はイタリ





アンレストランで食事をし、カルガリー最初の夜はふけて、長い6月21日が終わりました。

6月22日は朝7時からRI理事主催の朝食会です。アーチックRI会長はじめ、RI理事や在カルガリー総領事等の来賓を迎えて400名が参加しました。なかでも、フランチェスコ・アレツォRI会長エレクトは、挨拶の中で、「RI会長は2年の準備期間があるのが通常だが、私は2週間しかなかった。先週は土曜日に孫と遊んでいたが、火曜日には飛行機に乗っていた。」等と話して、会場は大いに笑いに包まれていました。

私たち夫婦は午前中の開会式に参加し、同期のガバナー5名が各国の国旗入場の旗手を務める様子を誇らしく見つめ、撮影していました。当年度のガバナーが旗手を務めるのは初めての試みなのだそうです。私自身は、ツアーの日程上開会式前日のリハーサルに参加することができなかったため、残念ながら旗手を務めることは叶いませんでした。

カウボーイハット姿のアーチック会長が何度も出てきては

スピーチや出演者の紹介をして、会場を大いに盛り上げていました。平和フェローでもあるプロ歌手のデイビッド・ラモットのギター弾き語り等、カルガリーらしさ満載で品のある開会式でした。

開会式終了後は友愛の家でランチです。各国のビュッフェが並ぶ中、韓国料理をチョイスしました。会場は満員御礼、人種のるつぼ





友愛の家でD3330ジャクチャイDG、パイキットPG、永田雄治氏、D2540佐藤DG、D2620小泉DGらと遭遇

でした。多くの友人と再会し、写真を撮ったり、バッジを交換したりして過ごしました。音楽が演奏され、広い会場には沢山のブースが並んで、お土産を買うこともできました。会場からホテルまでは、路面電車で移動します。大会期間中は、国際大会に登録している人は路面電車やバスが無料で供用されます。

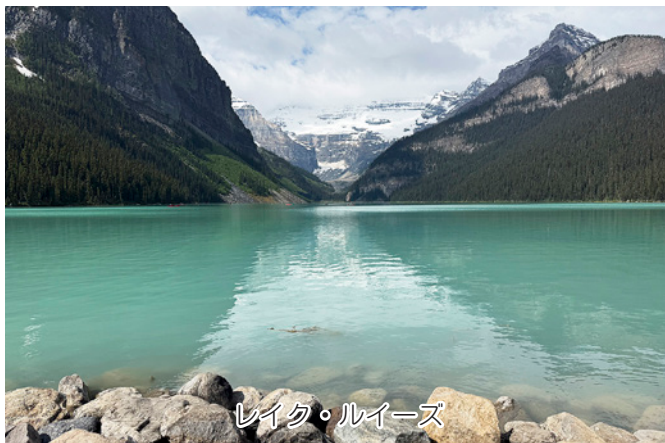
ホテルに戻って近くのコンビニに立ち寄って、お土産を買おうとレジに行くのとレジのお兄さんが、「What's Rotary Club?」と尋ねてきました。奉仕活動をしている世界規模の団体で、自分は日本から来たのだと言うと、自分も入れるか？とさらに聞くので、「もちろん。是非入会して下さい。」とカルガリーでも会員増強に励みます。ホテルに帰る途中、バス停でおばあさんから時間を聞かれて答えたりと、現地での触れあいも楽しいものです。

夜は2600地区との合同ガバナーナイトです。「アップルナイト」と銘打って、両地区総勢29名がステーキレストランに集まって親睦を図りました。2600地区の白鳥ガバナーと昨年のシンガポール国際大会のツアーで一緒にしてからプランを



立てた企画でしたので、多くの会員とパートナーが参加してくれたことと、料理が美味しかったことで大変よかったと思います。両地区の友好関係が更に発展することを望みます。

6月23日はツアーでバンフ観光に訪れました。多くのロータリアンが訪れるバンフ国立公園は、レイク・ルイーズやソルファール山のゴンドラ等、多くの絶景に感動する素晴らしい場所でした。ここでも同期ガバナーをはじめとする多くの友人と再会し、野生のエルク



レイク・ルイーズ



パンフ、ゴンドラ



エルク

(鹿)やシマリスにも出会えるというおまけつきでした。

6月24日、だいぶ疲れが溜まってきて、寝坊して朝食を食べられないまま集合時間となりました。午前中は自由行動だったので、ツアーに参加していた同期ガバナー達と市内散策とおみやげを買いに出かけました。昼食はフードコートでタイ料理をいただいたのですが、特に大きな問題もありませんでした。

今回の旅で発生した最大の問題は、朝食が出てくるのが遅く、しかも注文どおりに来ないことだったかも知れません。同期のあるガバナーは、二日連続で頼んだものが来なかったと言います。こんなことも含めて、接客の部分で、日本では常識的だが、海外では決してそうではないことをいくつか感じました。買った洋服をきちんと畳まないで紙袋にドサッと入れたり、注文と違うといっても取り替えずにそのまま置いていたりなど。

午後からの市内観光は、カルガリータワーとヘリテイジ・パーク。タワーの展望台はカルガリー市内全域と遠くにカナディアンロッキーを望むことができます。夕食は懐かしの和食をいただいて、ホテルの部屋に戻る前に敦賀さんを連れ出し、更に買い物をして、ようやくホテルに戻りました。明日は3時45分集合。カルガリーからバンクーバーを経由して、帰国の途につきました。

国際大会では、開会式の後、全体会、分科会やロータリー行動グループのミーティン



カルガリータワー前でツアーの皆さんと一緒に

グ、メジャードナー等の寄附者のイベントといった、多くの催しがあります。ただ、国際大会に参加する多くのロータリアンが、開会式に参加し、友愛の家を覗く程度だと思えます。その大きな理由が、同時通訳が行われるセッションが少ないことがあげられます。開会式では同時通訳が提供されますが、英語の苦手な日本人は、他のセッションに参加するのはなかなかハードルが高いのも事実でしょう。海外に来る度に、英語の重要性は感じるのですが、かといって一歩踏み出していないのも事実です。ロータリーをより楽しむためにも、英語を少しでも身につけて、積極的に英語でコミュニケーションを取るようにすれば、楽しさは何倍にも広がっていくことでしょう。

次年度の国際大会は台湾・台北で6月13日から17日までのスケジュールで行われます。まずはMy Rotaryから国際大会の登録をして、一緒に台北大会を楽しみましょう！

RIJYEM研究会 青森会議 開催報告

国際ロータリー日本青少年交換研究会青森会議 実行委員長

兼、RID2830 2022-23, 2023-24, 2024-25年度

地区青少年交換委員長 岡山 信広

(六ヶ所RC)



2025年6月7日(土)から8日(日)の2日間にわたり青森市内で『国際ロータリー日本青少年交換研究会青森会議』が開催されました。

本会議はロータリアン192名、来日・派遣学生・ROTEX125名、台湾からのロータリアン8名の合計325名が参加し、参加者から事故・けが人が出ることなく成功裏に終了しました。

「国際ロータリー青少年交換研究会」(以下、RIJYEM研究会)は1994年5月にD2630(岐阜・三重)岐阜市にて第1回が開催され、全国各地で地元実行委員会により地方色豊かに企画されています。直近の開催は以下の通りです。

第24回 2021-22年度

熊本市開催 D2720(熊本・大分)

第25回 2022-23年度

新潟市開催 D2560(新潟)

第26回 2023-24年度

天童市開催 D2800(山形)

第27回 2024-25年度

青森市開催 D2830(青森)

第28回 2025-26年度

福岡市開催 D2700(福岡)

D2830においては2002-03年度に第10回を開催しており、ピチャイ・ラタクルRI会長ご本人がご参加頂いたそうです。

青森会議の初日は『地区リーダー向け青少年プログラム&危機管理セミナー』から始まりました。“危機管理セミナー”を片山・RIJYEM副理事長、“青少年交換プログラム年次報告”を間石・RIJYEM法務担当が実施しました。

午後の本会議はD2830花田ガバナー(以下、G)の点鐘、片山・RIJYEM副理事長から「青少年交換の父」と言われた近藤眞道氏が2024年7月2日にご逝去された物故者追悼報告がされました。

国歌と「奉仕の理想」の斉唱が終わったの



ちに再び花田Gが歓迎挨拶、上山RIJYEM理事長の主催者挨拶の後に、ご来賓挨拶を西秀記・青森市長、倉橋純造・青森商工会議所会頭、水野功・RI理事から頂きました。

その後、『青少年交換プログラム50周年記念スピーチ』をガバナー会・青少年交換委員会・初代委員長の関場慶博・D2830パストガバナー(以下、PG)から頂戴しました。記念スピーチの中で、「50周年記念のRIJYEM研究会を青森で開催された理由は故・近藤眞道氏と関場PGとの対談を企画したのが理由である」とのご説明や、2002-03年の青森会議では、ビチャイRI会長が登場した航空機だけが悪天候中で奇跡的に着陸したことやRI会長の接待にご苦労されたお話が披露されました。



続いて日本語スピーチコンテストが開催され、日本全国の来日学生(来日学生(IBS))の中から1次予選、2次予選を勝ち抜いた6名の来日学生が出場しました。

基調講演は千葉すず氏による「私の海外経験談」と題して、怒涛の関西弁で会場が笑いに包まれました。参加者からは「元気が出た」とのコメントを頂戴しました。

その後のトークセッションは、パネリストとして基調講演をした千葉すず氏、ロータリー平和フェローで国際基督教大学修士2年のニコールさん、ROTEXの楠木文俊さん、柴田怜音くん、派遣学生の村上さくらさん、澤口菜月さんでした。参加予定だった

ROTEXの竹田つづらさんは体調不良により急遽不参加となりました。トークセッションの中でニコールさんは「青森県の高校生のグローバルスキルの発展」と題して研究成果を発表し、予想外の研究成果に会場は驚いていました。

基調講演、トークセッションの間、来日学生は青森市内を徒歩で観光する「青森ウォークツアー」に参加しました。リンクステーションからアスパム展望台、ワラッセ、A-factoryを観光しました。

大懇親会のオープニングでは深浦まぐろ解体ショーや『JCはやし隊』によるねぶた囃子ショーが実施され、ねぶた囃子ショーでは学生たちがステージ・ジャックし、ラッセーラーの掛け声と共に跳人を演じ、大変な盛り上がりになりました。

オープニングの後はアルコール有りの『JAPAN-Night』とノン・アルコールの『ROTEX-Night』に部屋が分かれ、それぞれで大懇親会を楽しみました。学生たちは元気で、地元高校生シンガーソングライターの紅葉さんの生演奏やダンスバトルをして大盛り上がりでした。

青森会議2日目は当地区のROTEX柴田怜音くん、IBSウエイ・ミン・リーくんからのROTEX報告から始まりました。

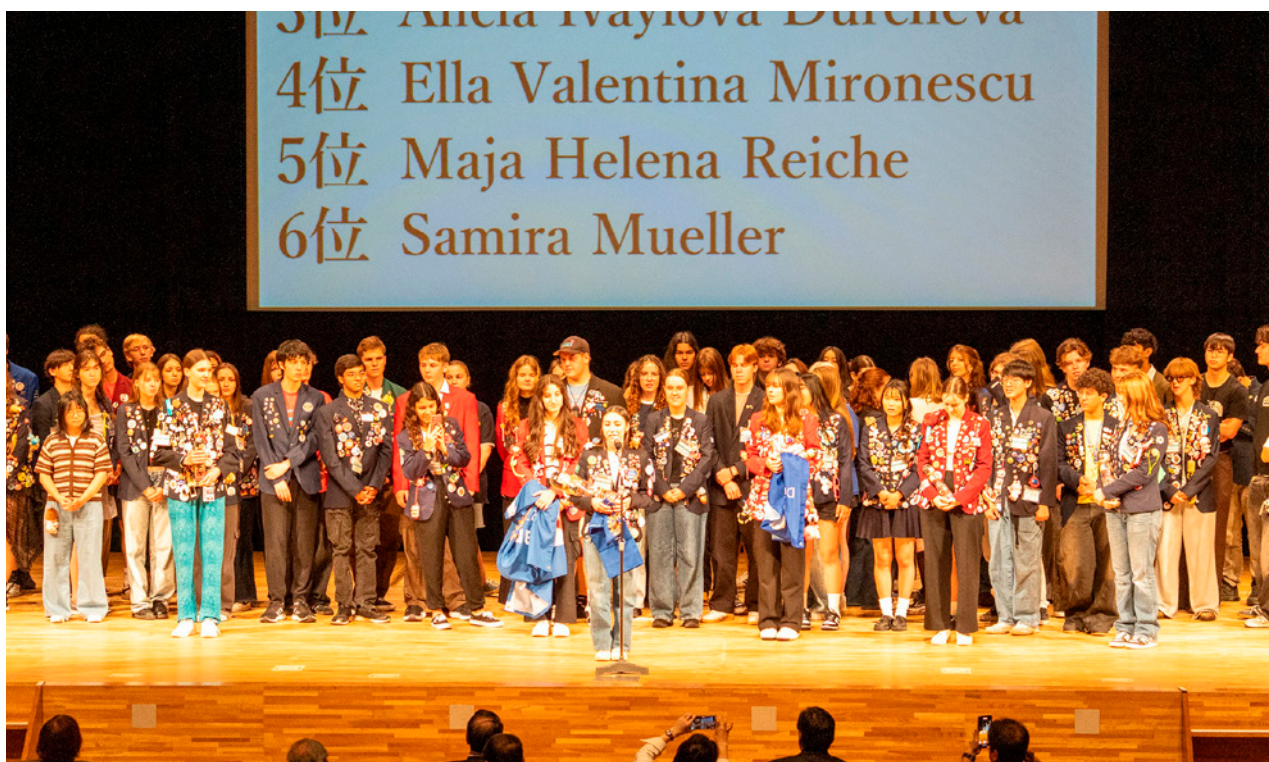
そのあとは台湾マルチ地区 洪 俊傑さん、Akiraさんから海外地区のプレゼンテーションが行われ、Akiraさんから近藤眞道さんへの感謝状が示され、上山・RIJYEM理事長が受け取り、OBS候補者でもある近藤さんのお孫さんへ渡され、お孫さんから感謝のスピーチがありました。

続いて日本語スピーチコンテストの結果が発表され、結果は次の通りでした。

1位 Helena Yumi Ledesmaさん

ブラジル(D2700)

2位 Melissa Delli Poggiさん



イタリア(D2800)

3位 Alicia Ivaylova Durchevaさん

カナダ(D2720)

4位 Ella Valentina Mironescuさん

カナダ(D2610)

5位 Maja Helena Reiche さん

ドイツ(D2750)

6位 Samira Mueller さん

スイス(D2770)

受賞のトロフィーは花田Gが用意した『黒石こけし』で水野RI理事から各受賞者へ手渡されました。

閉会式では研究会旗の引継ぎがされまし

た。第28回開催地のD2830花田G・米谷GE・岡山実行委員長から、第29回開催地のD2700野崎G、浜野GE、安増PG、大島実行委員長へ渡されました。D2700の誘致PV上映の後に大島実行委員長からスピーチがありました。



水野RI理事から講評を頂いたのちに、花田Gから感謝のご挨拶と点鐘で青森会議が無事に終了しました。

ご参加頂きました皆さん、青森会議運営にご協力いただきました皆さんに感謝を申し上げ報告を閉じさせていただきます。



インターシティ・ミーティング開催報告

東第1・第2グループ IMを開催して

東第2グループガバナー補佐 **佐々木 紀仁**
(十和田東RC)



2025年6月14日(土)に十和田市でRI第2830地区東第1・東第2グループインターシティミーティングを開催しました。

当日は東第2グループガバナー補佐の開会点鐘に始まり、セレモニー、主催の挨拶、花田ガバナーの挨拶、竹島ホストクラブ代表代理による歓迎の挨拶で開会セレモニーが終了。

その後はIMテーマでもある『みんなで学ぼう「DEI」』を源新委員長をはじめとする地区DEI推進委員会による講演が行われました。まず源新委員長からロータリーの歴史と変遷の説明があり、その歴史の流れの中でどのように「DEI」という考え方が取り入れられるようになってきたのか等の説明がなされました。その後は委員会の柏委員による「DEI」の考え方・捉え方を事例を交えながら説明がありました。90分という短い時間内ではありましたが、内容の充実さで参加された方々には今一度「DEI」を考え直す良い機会となったのではないのでしょうか。講演終了後花田ガバナーによる講評・総括が行われ

第2グループガバナー補佐の開会点鐘でIMプログラムは終了。

その後は会場を移して東第1グループ蛭沢ガバナー補佐の開会の挨拶で懇親会がスタート。ホストクラブの十和田東ロータリークラブ欠畑茂治IM実行委員長の御礼の挨拶に続き、花田ガバナーから岡山ガバナーノミニ・デジグネートへのポリオソサエティの表彰とバッジ伝達が行われました。その後、築館副ガバナーによる乾杯で宴に入り、蛭沢ガバナー補佐から東第

1グループと東第2グループの次年度ガバナー補佐が紹介されました。最後は地区DEI推進委員会のアドバイザーでもある佐々木千佳子パストガバナーによる閉会の挨拶で懇親会は終了しました。

今回も他グループのIMと同じようにIMの目的である「会員相互の親睦と面識を広め、会員にロータリー情報を伝えること」に即したのものになったのではないかと感じました。当日ご参加下さいました皆様、大変おつかれさまでした。



2024-25RYLA事業報告

2024-25RYLA委員会 委員長 三浦 基
(青森RC)



クマの出没により色々な軌道修正されながらも、とても山の中にある青森公立大学敷地内国際交流ハウスにて6月14日～15日の日程でRYLAが開催されました。

国際交流ハウスでのRYLAは2022-23以来ですが、一度使用した施設なので少し(いや、かなり)余裕をもって事業を構成していたのですが、青少年の参加者が32名とかなりの参加をいただき、宿泊キャパシティ問題が発生し一気に準備は慌ただしいものとなりました。

我々RYLA委員会がどれだけ心を尽くしてもどれだけ準備しても青少年の皆様が参加していただけないことには、この事業は成り立ちませんので委員会としてはうれしい悲鳴と

いったところでしょうか。

14日は第7代ねぶた名人の竹浪比呂央先生より「青森ねぶた祭の歴史とねぶた制作におけるリーダーシップ」の講演をいただき、青森ねぶたの歴史と制作時にどのようにスタッフを配置しているのかなどを学び、その後グループ討議で「青森ねぶたを世界に発信する方法」「若者のインバウンドを獲得する方法」を検討していただきました、お題は違うのに方法論はほぼ同じになるのは驚きでした。

夜はお楽しみの「友愛の夕べ」我々ロータリアンと青少年(20歳以上)が求めている飲料が違いすぎて余るもの足りないものが出てしまい、次年度からは参加者の希望を事前に聞き取るのも必要と委員は感じました。



15日朝は米谷GEによる「合気道講座」体を動かし関節のつくりや力のいなし方などを教わり力づくで抵抗するのではなく相手の力を利用して身を守ることを青少年は楽しそうに実践していました。



15日の講演は柏公市会員(青森RC)「会社経営におけるリーダーシップと社会生活における基本行動」の講演をいただきリーダの種類・種類ごとのメリットデメリット、「真の報・連・相」とは何か誰が誰のために行うのかなど社会人としてのルールを学びました。今回参加の青少年は社会人も多くいらしたので勉

強になったことと思います(誰よりも私が身に沁みました)感想文の発表もあり花田ガバナーより講評があり、修了証交付がありだったのですが最後はバスの時間の関係で全員に修了証を渡すことができず代表者だけにお渡ししたのが悔やまれます。

3年間の委員長職を通して青少年奉仕は未来への奉仕であり、それを目の当たりにできる喜びのある委員会だと感じました。そしてこの事業はインターアクト・ロー

ターアクト・米山記念奨学生・地域の青少年をつなぐ橋となるポテンシャルをもった事業です。

RAB・東奥日報社・青森ケーブルテレビを通じてロータリーが青少年奉仕に取り組んでいる団体だと発信することも大切なことです。取材いただいた皆様ありがとうございました。最後になりますがこの3年間青少年奉仕の楽しみを学ばせていただいた田中PG・築館PG・花田ガバナー誠にありがとうございました。



2024-25年度にご協力いただいた 災害支援金についてのご報告

ガバナー 花田 勝彦

1 能登半島地震、能登半島豪雨災害

令和6年1月1日に発災した能登半島地震には、前年度にクラブから支援金のご協力をいただき、RI2610地区に送金していましたが、今年度は、地区行事において能登半島、石川県の酒をご用意して、飲んだ方に支援金のご協力をいただく方法を取りました。

DTTS、PETS、DTA、地区大会、クラブ活性化ワークショップの5回に渡って、合計65万1,908円を送金いたしました。D2610大橋聡司ガバナーからは、感謝と協力依頼のビデオメッセージをいただきました。

これとは別に、令和6年9月に発生した能登半島豪雨災害への支援金として、地区内各クラブからの支援金は、87万628円であり、その全額を2610地区に送金しております。

送金日	支援金額(円)
2024年2月20日	201,610
2024年3月26日	84,802
2024年4月8日	26,400
2024年5月24日	47,118
2024年10月16日	248,978
2025年6月19日	43,000
合 計	651,908

2 大船渡山林火災災害

令和7年2月26日に発生した大船渡の山林火災では、建物等の焼失被害だけでなく、海産物の養殖や加工等の産業にも莫大な被害が発生し、2520地区から支援要請がございました。いち早く青森RCがクラブで支援金を送金したほか、地区から各クラブに支援要請を行った結果、85万4,474円の支援金が集まりました。これに地区平和資金から不足分を上乗せして、合計100万円を2520地区に送金いたしました。2520地区佐藤剛ガバナーより支援に対するお礼の書簡が届いております。

3 ミャンマー地震災害

3月28日に発生したミャンマー中部マングレーを中心とした地域にマグニチュード7.7の大地震が発生し、3100人を超える死者を出した大災害となりました。

軍事政権ゆえに送金方法や送金する場所を慎重に検討する必要がありましたが、3350地区を送金窓口とすることになりました。各クラブから、合計52万7,240円のご協力をいただきました。不足分は地区平和資金を利用して、これも100万円を所定の口座に送金させていただきました。

地区内各クラブの皆様、ご協力ありがとうございました。心より感謝申し上げます。



「2025年決議審議会」への決議案提出について

国際ロータリー第2830地区
ガバナー 花田 勝彦
2025年規定審議会地区代表議員
沼田 廣

2025年決議審議会への決議案提出について、過日、各クラブへご案内を差し上げておりましたが、どこのクラブからも提出がございましたので、その旨お知らせいたします。

あとがき

6月30日、ロータリー年度の最終日を迎えました。午後から開催される地域リーダー会議と、夕方のガバナー同期会「八重の会」に参加するため、東京へ行く飛行機の中でこのあとがきを書いています。こうして飛行機の中でガバナー月信の原稿を書くのも、今回が最後となるでしょう。

ガバナー年度で自分らしさを出す一つのツールとして、ガバナー月信を充実したものにしたいという希望がありました。書くことが仕事の一つであり、さほど苦にならないため、たくさんの記事を書いたと思います。地区行事はほとんどすべてを紹介し、クラブの奉仕活動もなるべく取り上げたつもりです。

先日各クラブにガバナー月信を綴じるファイルを1冊ずつ送らせていただきました。両面印刷すると、第1号からこの最終号までぴったり綴じられる厚さになっていますので、保管用に是非ご利用ください。「われこそは愛読者である！」と自負される方には、まだ少し予備がございますので、地区事務所までご連絡下さい。在庫がなくなった際にはごめんなさい。

「個性輝くロータリー」をスローガンとし、思いやりのあるロータリアン、クラブを目指しつつも、眼前に逼迫した会員増強問題への対応をしてきました。7月1日時点での会員数はもう少し後にならないと正確には分かりませんが、何とか5年ぶりに1100名を超えられそうです。これも地区内ロータリアンの皆様の多大なご協力のおかげと改めて感謝申し上げます。

次年度は、第1地域ロータリー会員増強コーディネーターである第2840地区田中久夫PGの補佐の役割を与えられましたので、引き続き、今度は地区を超えた地域レベルで会員増強に関わることになります。

本来私たちが注力すべきは、魅力のあるクラブづくりであり、その魅力を共有する仲間を増やす活動だと思います。そして、魅力あるクラブは、メンバー1人1人の日々の言動の積み重ねによってかたち造られるものです。「あんな素敵な人が入っているロータリークラブに入りたい！」と言われるようなクラブにすることが持続可能な会員増強策なのです。

自分自身もそうなれるよう、引き続き精進して参ります。1年間本当にありがとうございました。次年度もロータリーの活動でお目にかかるのを楽しみにしています。

ガバナー 花田 勝彦



GOVERNOR'S MONTHLY LETTER 2024-25

STAFF

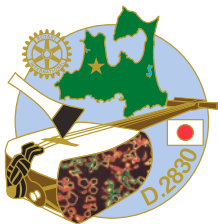
ガバナー 花田 勝彦

今 広樹

増田 卓也

近藤 陽介

地区事務所 浅利 育子



個性★輝くロータリー

国際ロータリー第2830地区

2024-25年度 ガバナー 花田 勝彦